

# 四万十川流域生態系ネットワーク 短期目標の達成に向けた取組 (2021年～2025年)

2022年2月

四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

# 目次

<b>1</b>	<b>四万十川流域生態系ネットワーク全体構想の概要</b>	<b>1</b>
1-1.	四万十川流域生態系ネットワークの趣旨	
1-2.	全体構想の位置づけ	
1-3.	対象区域	
1-4.	四万十川流域生態系ネットワークの目標	
1-5.	ツル類の安定した越冬環境づくりの問題点と取組項目	
1-6.	ツル類を活かした地域・人づくりの問題点と取組項目	
<b>2</b>	<b>短期目標の達成に向けた取組について</b>	<b>5</b>
2-1.	位置づけ	
2-2.	取組の推進と点検	
<b>3</b>	<b>ツル類の安定した越冬環境づくりの取組</b>	<b>6</b>
3-1.	堤内地での代替ねぐらの確保	
3-2.	堤内地での採食環境の創出	
3-3.	耕作放棄地の再活用	
3-4.	デコイの設置	
3-5.	人の利用の調整	
<b>4</b>	<b>ツル類を活かした地域・人づくりの取組</b>	<b>11</b>
4-1.	ツル類を活かした農業振興	
4-2.	ツル類を活かした観光振興	
4-3.	理解と関心の醸成	
4-4.	人材の育成・確保	
4-5.	資金の調達	

# 1 四万十川流域生態系ネットワーク全体構想の概要

## 1-1. 四万十川流域生態系ネットワークの趣旨

- ・四万十市の礎として地域の文化を創り上げてきた「最後の清流」四万十川は、農林漁業、観光業、市民生活を支えるとともに、憩いの空間として親しまれています。
- ・四万十市に暮らす私たちは、四万十川を軸とした流域の多様な生きものや景観を守り、将来に引き継いでいく必要があります。
- ・自然環境の保全・再生は、農業・観光・教育等に新たな魅力を生み出すことができます。これにより、市民が地域を誇りに思うようになるとともに、地域の活性化等への展開も期待されます。
- ・四万十川流域生態系ネットワークは、多様な主体との連携・協働により四万十川流域の豊かな自然環境の保全・再生と地域の活性化を目指します。



## 1-2. 全体構想の位置づけ

- ・全体構想は、四万十川流域生態系ネットワークの形成に参加する様々な主体が取組の目的と目標を共有し、連携・協働して取組を円滑に推進するために作成されています。

## 1-3. 対象区域

- ・全体構想の対象区域は、四万十市域を範囲としています。

## 1-4. 四万十川流域生態系ネットワークの目標

### 短期目標（～2025年）

#### 【ツル類の安定した越冬環境づくり】

これまで取組が行われてきた江ノ村地区、ツル類の飛来実績が多い森沢・間地区において、農業者の理解、協力を得て、冬期湛水等のねぐら環境の創出や、二番穂の確保等の採食環境の創出が行われている。

また、地域住民等の理解、協力を得て、ツル類への人為的なストレスが低減されている。

これらの取組により、四万十川流域で越冬できるツル類の個体数が増えている。

#### 【ツル類を活かした地域・人づくり】

江ノ村地区や森沢・間地区において、農業者の理解・協力を得ながら、ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が進められている。

地域住民等の理解、協力を得ながら、観光利用でのルールの設定や受け入れ体制の構築が行われ、来訪者の受け入れが始められている。

地域内外への情報発信や普及啓発の継続により、四万十川流域の「つるの里」としての認知度が上がっている。

### 中期目標（～2030年）

江ノ村地区、森沢・間地区において、ねぐら環境・採食環境の創出、人の利用の調整が、ツル類を活かした農業振興や観光振興も相まって、継続されている。

また、流域内のツル類の生息ポテンシャルが高い地区でも、農業者や地域住民等の理解・協力を得ながら、生息環境づくりが進められている。

これらの取組により、四万十川流域でさらに多くのツル類が越冬できるようになっている。

ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が継続して取り組まれ、地域内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。

地域の事業者等との連携・協働により、ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。

地域内の多様な主体が参加・協働する取組になるとともに、地域外の人や組織との連携・協働が進み、地域の関係人口が増えている。

### 到達目標（～2050年）

四万十川流域で、河川を基軸とした生態系ネットワークが形成され、「宝」である生態系と歴史・文化・伝統を活かした産業が営まれている。

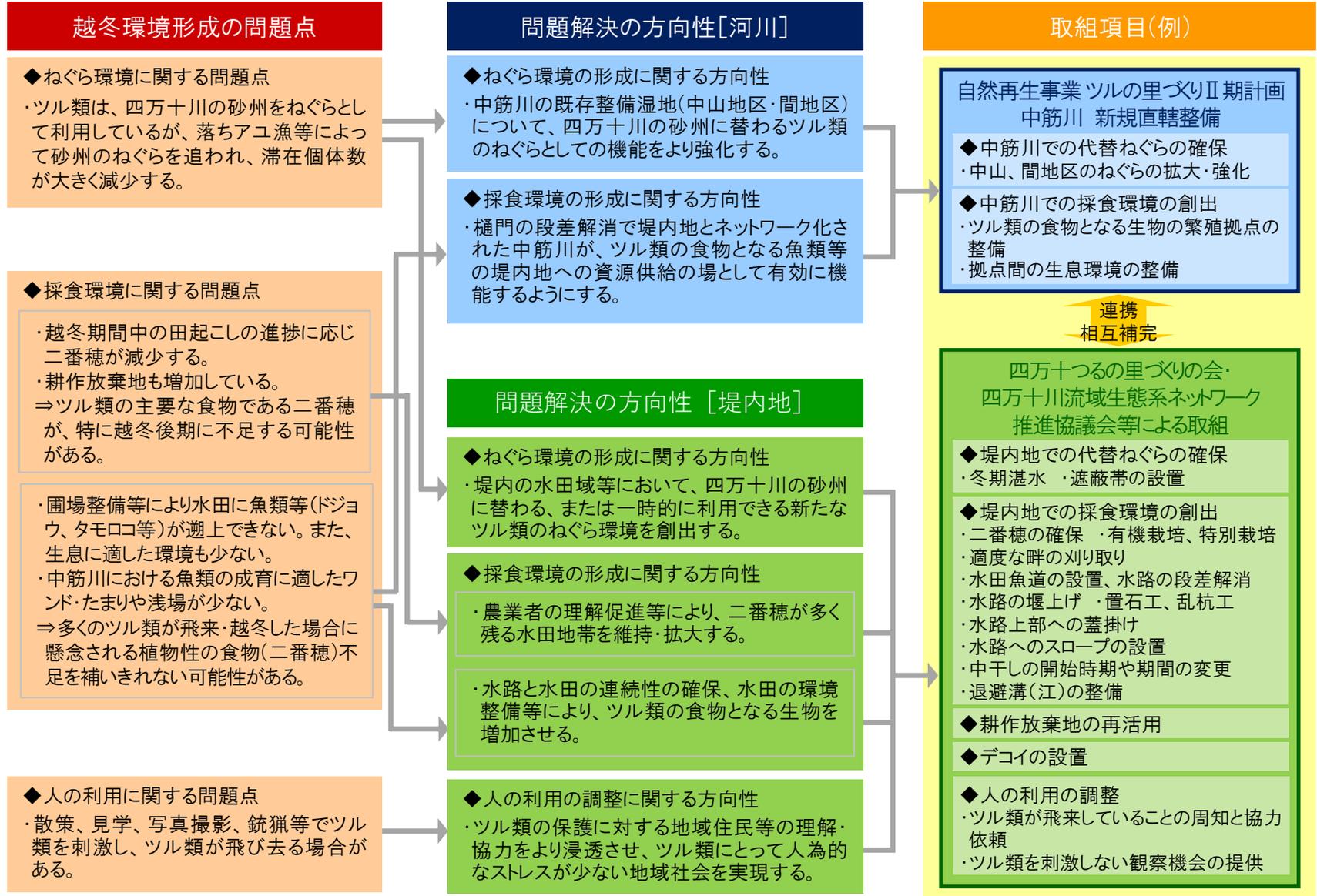
ツル類を指標とした四万十川流域での取組から、幡多地域の生態系ネットワーク形成へ取組が展開されている。

#### 四万十市の「宝」である生態系を保全し、活かし、地域の活力にする



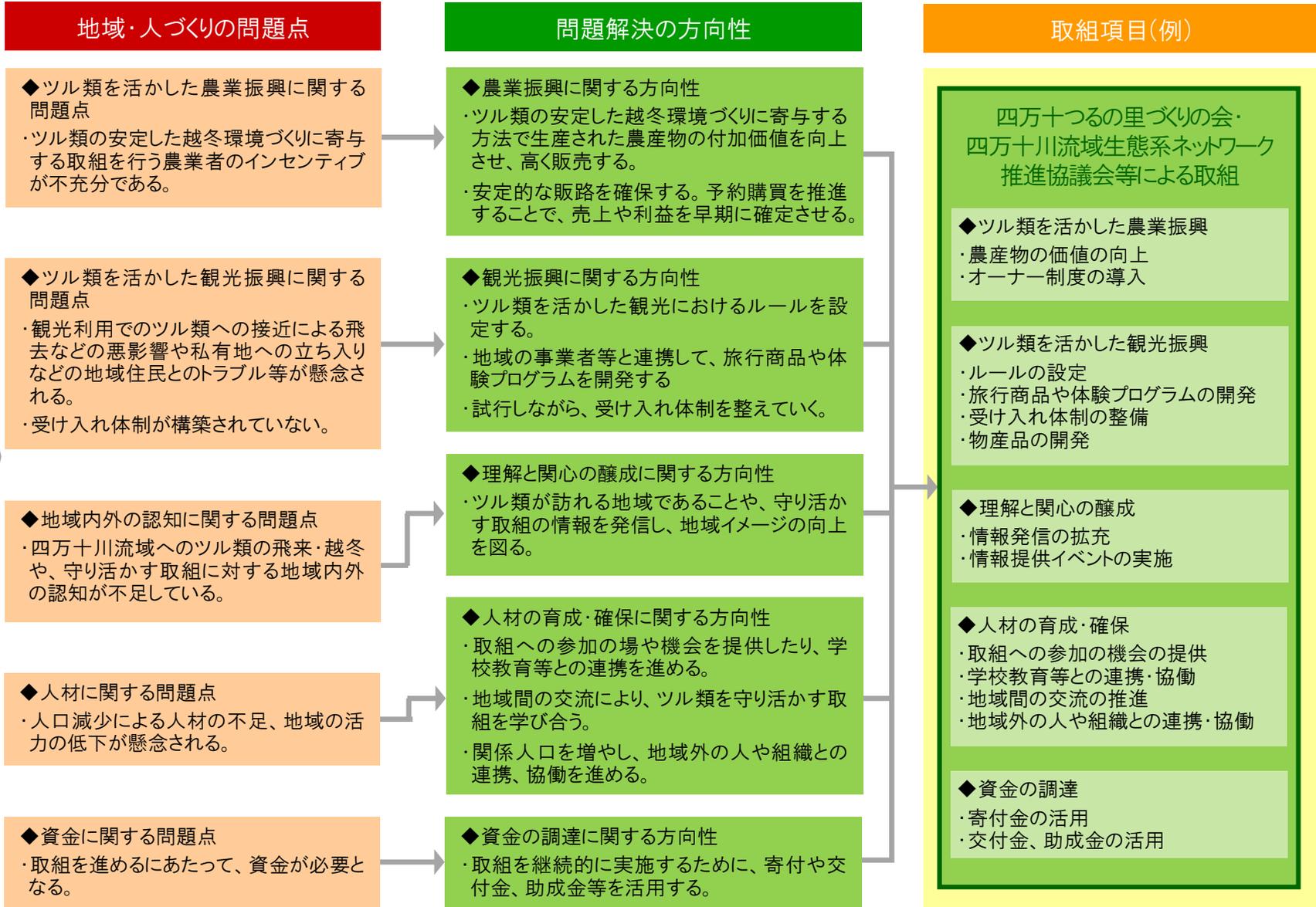
# 1-5. ツル類の安定した越冬環境づくりの問題点と取組項目

飛来したツル類が安定的に越冬できる環境形成には至っていない



# 1-6. ツル類を活かした地域・人づくりの問題点と取組項目

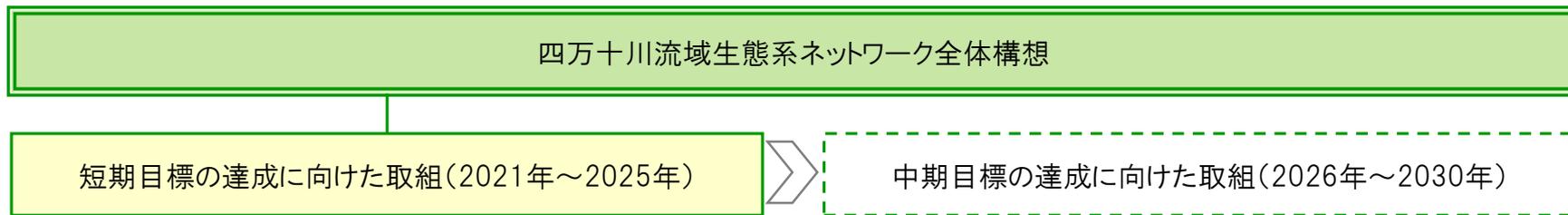
ツル類を活かした地域・人づくりを進めたい



## 2 短期目標の達成に向けた取組について

### 2-1. 位置づけ

- ・ 四万十川流域生態系ネットワーク全体構想に掲げられた短期目標の達成に向けた2021年～2025年の具体の取組を示しました。



### 2-2. 取組の推進と点検

- ・ 四万十川流域生態系ネットワークの短期目標の達成に向けて、多様な関係主体と連携・協働し、各取組を推進します。
- ・ 各取組の毎年の進捗状況を、ワーキングにおいて点検するとともに、必要に応じて内容の見直しや追加を行うこととします。
- ・ 各取組の当該年の成果や進捗状況を、四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会に報告し、推進協議会の構成メンバーから助言や協力を得ます。
- ・ 各取組の達成状況を、2025年に確認・評価し、次期の中期目標の達成に向けた取組（2026年～2030年）に反映します。

# 3 ツル類の安定した越冬環境づくりの取組

## 3-1. 堤内地での代替ねぐらの確保

### 【概要】

関係者の理解・協力を得て、田んぼへ冬期に水を張ることにより、ツル類の代替ねぐらを堤内地で確保します。

### 【取組の流れ】



### 【工程】

取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> 取組候補箇所の検討を行う。	→				
<input type="checkbox"/> 江ノ村地区で、代替ねぐら環境を創出する。自動撮影カメラを設置して、モニタリング調査を行う。		→	→	→	→
<input type="checkbox"/> 江ノ村地区で取組箇所を拡大することを検討する。		→	→	→	→
<input type="checkbox"/> 森沢・楠島・間の各区の農業者へのヒアリングや意見交換会を行う。	→		→		
<input type="checkbox"/> 農業者の理解・協力が得られれば、関係者との調整を行い、代替ねぐら環境を創出する。			→	→	→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

### 3-2. 堤内地での採食環境の創出

#### 【概要】

関係者の理解・協力を得て、二番穂の確保、有機栽培・特別栽培、田んぼや水路の環境整備等の実施により、ツル類の採食環境を堤内地で確保します。

#### 【取組の流れ】



#### 【工程】

取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> 江ノ村地区で、水稻の有機栽培を継続するとともに、改善箇所があれば環境整備を行う。					→
<input type="checkbox"/> 森沢・楠島・間の各区の農業者へのヒアリングや意見交換会を行う。			→		
<input type="checkbox"/> 農業者の理解・協力が得られれば、採食環境の創出の手法を検討し、関係者と調整して実施する。					→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

### 3-3. 耕作放棄地の再活用

#### 【概要】

自治体、地区と協働して、耕作放棄地の復田等の再活用を検討します。

#### 【取組の流れ】



#### 【工程】

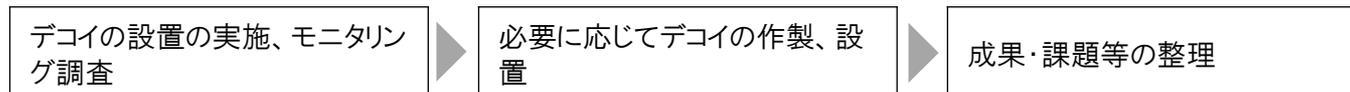
取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> 江ノ村地区での今後の方向性(ゾーニング、実施可能な手法等)を検討する。			→		
<input type="checkbox"/> 関係者(地権者、新規就農者等)との調整を行う。			→	→	→
<input type="checkbox"/> 耕作放棄地の復田等を行う。				→	→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

### 3-4. デコイの設置

#### 【概要】

堤内地で代替ねぐら環境を創出した箇所等へ、ツル類を誘引するために、デコイを設置します。

#### 【取組の流れ】



#### 【工程】

取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> 中山地区の自然再生事業箇所へのデコイの設置を継続する。					→
<input type="checkbox"/> 間地区の自然再生事業箇所へのデコイの設置を継続する。					→
<input type="checkbox"/> 江ノ村地区の代替ねぐら環境の創出箇所にデコイを設置して、モニタリング調査を行う。					→
<input type="checkbox"/> 新たに代替ねぐら環境が創出が行われれば、デコイの作製を行い、設置する。					→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

### 3-5. 人の利用の調整

#### 【概要】

地域住民等の理解・協力を得ながら、人の利用の調整を行い、ツル類への人為的なストレスを低減します。

#### 【取組の流れ】



#### 【工程】

取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> 特定猟具使用禁止区域の指定に向けた関係者との調整を行う。関係者の理解が得られれば、指定を要望する。					→
<input type="checkbox"/> 森沢・間地区に啓発看板を設置する。					→
<input type="checkbox"/> 四万十川流域におけるツル類との接し方や観察・撮影のマナーを検討する。	→				
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、マナーの見直し、追加を行う。					→
<input type="checkbox"/> 広報媒体等を用いて、マナーの周知と協力の依頼を行う。					→
<input type="checkbox"/> 森沢・間地区での立ち入り制限を検討し、関係者との調整を行う。関係者の理解が得られれば、立ち入り制限を行う。					→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

# 4 ツル類を活かした地域・人づくりの取組

## 4-1. ツル類を活かした農業振興

### 【概要】

関係者の理解・協力を得ながら、ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化を検討します。

### 【取組の流れ】



### 【工程】

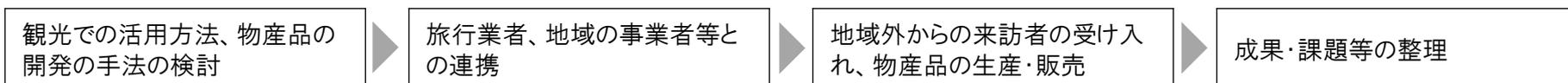
取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> 農産物の付加価値化の先行事例から仕組み等を学び、方向性を検討する。		→			
<input type="checkbox"/> 森沢・楠島・間の各区の農業者へのヒアリングや意見交換会を行う。	→				
<input type="checkbox"/> 森沢・楠島・間の各区の農業者の意向を踏まえ、農産物の付加価値化の手法を検討し、関係者との調整を行う。		→			
<input type="checkbox"/> ツル類の越冬環境づくりに寄与する方法で生産された農産物の認証等が行われる。					→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

## 4-2. ツル類を活かした観光振興

### 【概要】

関係者の理解・協力を得ながら、ツル類を活かした旅行商品や体験プログラム、ツル類をモチーフとした物産品の開発を進めます。

### 【取組の流れ】



### 【工程】

取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> ツル類の観光での活用方法を考え、内容や伝え方、体制等を検討する。				→	
<input type="checkbox"/> 四万十つるの里祭りでのツル観察バスツアーなど、試行を通して、ブラッシュアップを行う。				→	
<input type="checkbox"/> 旅行業者等との連携を図り、助言を得ながら進める。				→	
<input type="checkbox"/> 地域外からの来訪者の受け入れが行われる。					→
<input type="checkbox"/> 先行事例等を参考に、ツル類をモチーフとした物産品の開発の手法を検討する。				→	
<input type="checkbox"/> 地域の事業者、学校教育等と連携を図りながら進める。				→	
<input type="checkbox"/> ツル類をモチーフとした物産品の生産・販売が行われる。					→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

### 4-3. 理解と関心の醸成

#### 【概要】

地域内外への普及啓発・広報を行うことにより、四万十川流域の「つるの里」としての認知度を高めます。

#### 【取組の流れ】



#### 【工程】

取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> 四万十川流域に飛来したツル類や各取組の写真・動画等の素材を収集、整理する。					→
<input type="checkbox"/> 普及啓発・広報ツールの一つとして、これまでの取組を紹介する動画を作成する。小冊子「四万十のツル」を配布する。	→				
<input type="checkbox"/> 普及啓発・広報ツールを検討し、作成、更新を行う。					→
<input type="checkbox"/> ウェブページ、SNS等での情報発信を行う。					→
<input type="checkbox"/> 報道関係者への情報提供を行う。					→
<input type="checkbox"/> 四万十つるの里祭りの開催を通して、取組の普及啓発・広報を行う。					→
<input type="checkbox"/> 地域内外の施設(四万十市内の社会教育施設、高知県内の動物園、道の駅、民間の商業施設等)との調整を行い、展示等を行う。					→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

## 4-4. 人材の育成・確保

### 【概要】

「ツルの自然体験学習会」を継続、発展させるとともに、学校教育等との連携・協働を図ります。ツル類の保全に取り組む他地域との交流を深め、学び合いを通じて取組を進めます。また、各取組で参加の機会を提供します。

### 【取組の流れ】



### 【工程】

取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> ツルの自然体験学習会を四万十市立東中筋小学校・東中筋中学校を対象に行う。出水市立鶴荘学園との交流授業を実施する。	→				
<input type="checkbox"/> 四万十つるの里祭りにおいて、四万十市立東中筋小学校・東中筋中学校が、学習成果を地域に発表する。	→				
<input type="checkbox"/> ツルの自然体験学習会の対象の拡大、学校間交流の展開、児童生徒から地域への発信等を検討し、関係者との調整を行う。					→
<input type="checkbox"/> ツルの自然体験学習会、学校間交流を継続的に実施する。					→
<input type="checkbox"/> 幡多農業高校との連携・協働の可能性について、ヒアリングや調整を行う。		→			
<input type="checkbox"/> 可能であれば、幡多農業高校と各取組で連携・協働を図る。					→
<input type="checkbox"/> 各取組で地域内外の人々が参加できる機会を設ける。					→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→

## 4-5. 資金の調達

### 【概要】

必要に応じて資金を調達し、各取組を進めます。

### 【取組の流れ】



### 【工程】

取組内容	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
<input type="checkbox"/> 先行事例等から資金調達の方法(寄付金、交付金、助成金等)を学び、活用を検討する。					→
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、取組の資金を調達する。		→			→
<input type="checkbox"/> 調達した資金を活用して取組を実施する。		→			→
<input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。					→